

善福寺公園内「みんなの夢水路」事業における市民組織と計画実現プロセスの研究

滝澤恭平¹・中村晋一郎²・島谷幸宏³

¹正会員 九州大学大学院工学研究院 (〒819-0395福岡市西区元岡7 4 4, E-mail:twky00@gmail.com)

²正会員 工博 名古屋大学工学研究科土木工学専攻 (〒160-0004名古屋市千種区不老町名古屋大学工学部9号館307号室, E-mail: shinichiro@civil.nagoya-u.ac.jp)

³正会員 工博 九州大学大学院工学研究院 (〒819-0395福岡市西区元岡7 4 4, E-mail: shimatani@yukihiro.name)

東京都杉並区における「みんなの夢水路」事業では、市民組織である「善福寺川を里川にカエル会（善福蛙）」が、地域主体との関係づくり、ビジョン形成、計画策定と実現に深く関与し続けた。本研究の目的は、都市河川再生事業における地域主体としての市民組織の活動と、公民連携事業における計画プロセスのあり方を明らかにすることである。

キーワード 都市河川再生, 地域主体形成, 市民組織, 自然再生, 計画マネジメント

1. 研究の目的と方法

都市河川再生においては、地域のステークホルダーとしての地域主体の参画による公民連携が重要である。計画策定プロセスから、地域主体と検討を行うことによって、地域にとって必要なアクティビティや空間、生態系などの質と量を把握することが可能となり、地域に求められるデザインが可能となる。また、施工後の維持管理においては、環境の変化に適応してモニタリングを行いながら、適宜細やかな管理を行うことが必要となる。とりわけ都市域における生物多様性向上を目指す自然再生が事業に内包される場合は、地域の環境を微細に把握する必要がある。これらの維持管理においては、地域の環境変動に日々向き合う地域主体の存在が欠かせない。地域主体と行政が連携しながら事業を実現し、持続的に空間を維持するためには、地域の情報に基づき活動を行い、地域の様々な主体やリソースを連携させ、事業を実現させる実行力のある第三の主体としての市民組織が求められる。

本研究の目的は、都市河川再生事業における地域主体としての市民組織の活動と、公民連携事業における計画プロセスのあり方を明らかにすることである。研究の手法としては実践型の参与研究として、筆者が市民組織の一員として、事業に関わった東京都杉並区における「みんなの夢水路」事業を対象とする事例研究によって行う。本事業は、行政でなく地域主体の提案によって善福寺公園内の水路再生事業が決定し、その後の基本計画、設計、

維持管理体制の確立、施工、維持管理運営のプロセスにおいて、地域主体が関与・参画し続けた事業である。本事業では、市民組織である「善福寺川を里川にカエル会（善福蛙）」が、地域主体との関係づくり、ビジョン形成、計画策定と実現に深く関与し続けた。筆者らは善福蛙のメンバーであり、筆者の滝澤は、2014年9月から2018年6月まで事務局長として、中村は共同代表として、島谷は会長として、夢水路事業に関わるファシリテーションを継続的に行ってきた。市民組織である善福蛙が、どのように河川再生のビジョンを地域主体と共有し、プロジェクトを実現したのか、5年間に渡る「みんなの夢水路」事業の広義のデザイン・マネジメントを分析の対象とする。

2. 善福寺川と地域活動主体の概要

善福寺川は東京都杉並区善福寺の善福寺池を水源とし、善福寺2丁目を上流端、杉並区和田1丁目を神田川合流点とする全長10.5km（法定延長8.8 km）、流域面積は 18.3 km² の一級河川神田川の支流である。流域周辺には善福寺公園を始め、善福寺川緑地、和田堀公園と、都市域でありながら河川沿いに緑地が連続する立地となっている。一方で、河道は全区間に渡りコンクリート2面張りによる掘り込み護岸であり、人びとが日常的にアクセスできる親水空間はほとんど存在しない。現在、時間50mm降雨に対応するため、神田川環状7号線地下調節池、和田堀公園内掘り込み式調節池、善福寺川緑地公園地下調節池



図-1 善福寺川沿川と緑地

などの調節池事業が完了した他、河道では、さらなる河床掘削工事が下流部より進められている。中村(2018)の研究では、上流域の土地利用は、1880(明治13)年には、山地・原野と田、畑・荒地の合計は約9割、宅地は6%であったが、1966(昭和41)年には山地・原野と田、畑・荒地が2割に減少、宅地は48%に増加している¹⁾(中村, 2018)。このように急速に都市化が進んだ結果、浸透域が減少し、降雨時に河川に流出が集中し、洪水リスクが増加することは、都市河川に共通する課題であり、善福寺川では、現在でも台風などの集中豪雨時に、度々氾濫危険水位に到達している。

また、善福寺川流域は全域にわたり合流式下水道流域であり、降雨時に、合流式下水道の越流水が吐口から河川に放流され、水質が悪化する合流式下水道越流水(Combined sewer overflow (CSO))が、発生している。既存研究の実測調査では、善福寺川上流域において、時間6mmの降雨でもCSOが発生している²⁾(岩永他, 2015)。

上記のように、善福寺川は、都市域における流入負荷増加に伴う洪水リスクの増加、河川改修による親水性の喪失、合流式下水道による水質の悪化、生物多様性の単調化などの課題を持つ。一方で、地域には、善福寺川に関心を持つ主体が多数存在し、2008(平成20)年から開始された杉並区「善福寺川「水鳥の棲む水辺」創生事業」や、地域の複数の市民組織により2000年から毎年開催されている「善福寺川フォーラム」など、善福寺川再生への期待は徐々に高まってきている。

善福寺川上流部沿川に位置する杉並区立井荻小学校は、校庭敷地の中を善福寺川が流下するという特殊な立地となっている。井荻小学校において、2009年より川学習が開始された。川学習は当時小学校5年生の担任であった住谷陽子氏が「私たちの生活と環境」という社会の授業で、京都市鴨川の再生を題材にしたことから始まる。生徒たちからは実際に自分たちの足元を流れる善福寺川を調べたいとの要望があり、NPOすぎなみ環境ネットワークの境原達也氏による善福寺川をテーマとした講義と、生徒た

ちの自主活動による川掃除が開始された。当初は河川沿道のゴミ拾いから始まった活動だが、「学校支援本部いおぎ丸」の岩渕晴子氏の協力により区の許可を取り、2010年9月に生徒らは実際に善福寺川の河道に入り、清掃活動を行う機会を得た。河床に立った子どもたちはヨシや護岸に付着したトイレトーパーを発見し、その理由を調査した結果、合流式下水道のCSOが原因であるという理解に至る。生徒たちの川に対する関心と、川掃除という体験は、毎年次の学年に引き継がれると同時に、井荻小学校では2011年より、環境教育と川学習を体系的にプログラム化し、小学校3年生から6年生までが、段階的に善福寺川の現状を学習する体制が整った。

2013年4月に善福寺川を里川にカエル会(通称:善福蛙)は設立された。善福蛙は、「東京の川を里川に変えると日本が変わる」ことを目指し、九州大学大学院の島谷幸宏氏、東京工業大学大学院の桑子敏雄氏が発起人となり、2011年にプロジェクトを開始し、2013年に正式に立ち上げ集会を行った。メンバーとしては、地域住民、地域の学校関係者、市民組織メンバー、専門家、研究者、編集者、学生など多様な構成員から成る。筆者らもその一員である。善福蛙の活動は地域で既にそれまでにあった活動をゆるやかにつなぎ、フィールドワークやワークショップなどのイベント(カエルアクション)を和田堀公園、善福寺公園、公民館、学校など流域全体で開催し、善福寺川再生のビジョンを広く共有することを基層としている。また、ロゴやバッジ、パンフレット、Tシャツなども展開し、公園でカエルカフェを実施するなど、一般市民への認知、理解、共感を高めるソーシャル・デザインにも力を入れている。また、流域に係る地域の課題が発生した際には、それぞれの課題解決に向けて各メンバーが個別に専門能力で対応しながらも、善福寺川を里川に変えるというビジョンを共有するネットワークである。



図-2 善福蛙活動MAP(作成:東京学芸大学吉富研究室,善福蛙)

2012年11月には、井荻小学校の川学習に善福蛙メンバーの中村晋一郎氏が初めて出張授業を行い、それ以降、毎年の井荻小学校の川学習プログラムの一部を担当することとなった。2014年5月の中村氏の出張授業では、他流域での河川再生事例を紹介したうえで、生徒が各自、善福寺公園内の水路に関する夢のビジョン(夢の水路設計図)を

描画するという授業を行った（中村 2018）。その成果を2014年7月、井荻小学校の5,6年生113名を代表して、4名の生徒が区役所を訪れ、田中良区長に手渡した。多くの設計図では、水路のフェンスを撤去し、親水空間として自然再生することが描かれていた。区長は生徒たちの声を受けて、杉並区の総合計画の見直しに取り入れることを約束した。その後、告示された区の総合計画には「みんなの夢水路」という項目が掲載され、小学生、地域、行政が協働の事業として整備していくことが決定された。



図-3 夢水路設計図を発表する井荻小学校の生徒

3. 善福寺公園内水路の空間の履歴と現況

水源の善福寺池の周辺地域は、1930（昭和5）年に都市計画法による善福寺風致地区の指定を受け、元井荻町長の内田秀五郎他10名を設立発起人に善福寺風致協会が1934（昭和9）年に設立された。当時の善福寺池は上池の水源である「遅野井」を中心とする現在の1/3程度しか開放水面が存在せず、残りの部分は湿地であった。現在の渡戸橋下流から下池にかけての低地は水田として利用されていた。上池から湿地帯を流下する善福寺川源流の小川は、遅野井川またはヨシキリ川と呼ばれた。ヨシキリは河川や湖沼の湿地に生息するスズメ科で、当時の景観が想起できる。1935（昭和5）年に風致協会は、池の周辺7000坪あまりを賃借し、風致地区改善施設事業として、東京都と共同で水面拡張工事を行った³⁾（中島 2000）。拡張した上池で、鯉鮒の養魚とボート経営が行われ、風致協会の財源の柱となった。さらに、風致協会と東京都は、菖蒲園構想に基づき、昭和18年までに下池を造成した（中島 2000）。上記のように、善福寺池は、関東大震災後の郊外地の土地区画整理事業に伴い、人びとを郊外に誘致することを目的とし、風致地区の核心施設として拡張された人造池であった。善福寺池周辺は、1961（昭和36）年に都立

公園として開園した。

上池と下池のあいだには、かつて水田への給水に利用されていた水路が残り、都立公園に隣接する水路として、



図-4 善福寺池下池造成以前の昭和10年代の湿地景観（皇都勝景 1940 東京都風致協会連合会）

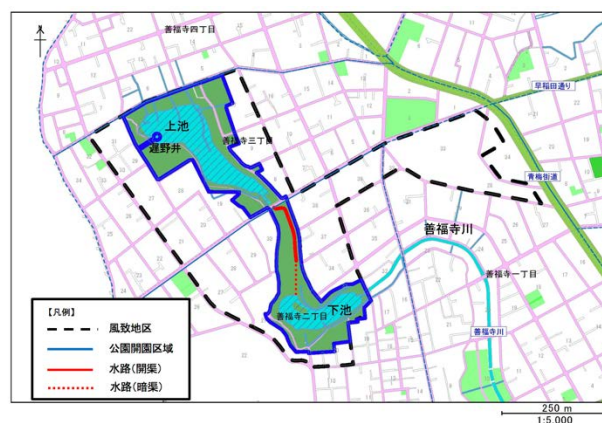


図-5 善福寺公園上池、下池、水路の位置図（杉並区資料を元に筆者加筆作成）

杉並区の公物管理対象となった。水路は1980年代には地域住民有志によりへイケホテル再生の場所として活用され、カワニナの養殖が行われた。当時はホテル再生が流行しており、カワニナの盗難防止を目的とし、地域住民が区に要請し、水路中上流部の側部を金網フェンスで覆った。水路の護岸はコンクリートブロックと侵入防止柵が全長に渡り設けられ、もともと水面にアクセスしにくい状況であったが、河道空間を封鎖するフェンスによって、親水性は完全に失われ、人びとが近づきにくい空間となった「図-6」。地域の人びとはこの水路を「ホテル水路」と呼んでいる。

水路では、2007年より「すぎなみシェアリングネイチャーの会」の依頼により、NPO法人「すぎなみ環境ネットワーク」が、区民の親子向けに「川調べ」を開始し、以降経年的に、生物、水質の状況を把握している。



図-6 みんなの夢水路事業施工前の水路とフェンス現況

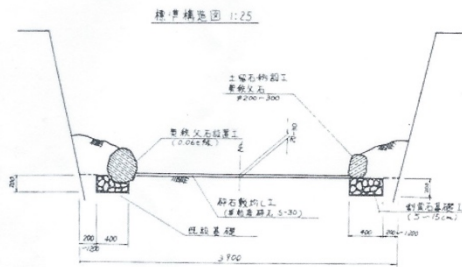


図-7 みんなの夢水路事業施工前の水路断面図 (杉並区提供)

水路現況は、渡戸橋からの開渠区間延長148m、下流方向に下池への暗渠区間が存在する。深さ1.7mのコンクリートブロック積み護岸、河床幅員は3.9m、河床両端に土留石と植栽帯があり、セキショウが優占し、アカメガシワ、イロハモミジなど高木が侵入している。河床は碎石敷き均しの上に泥が堆積し、水深は10～20cm、流速は10cm/秒以下である。COD値は2007年から2009年までは5程度、2010年以降は2程度で安定傾向にある。水生生物としてはモツゴ、トウヨシノボリ、ドジョウ、スジエビ、ミナミヌマエビ、アメリカザリガニ、ミズムシなどが出現するが、生物多様性の観点からは単調な環境にあり、2011年以降は、生き物の絶対数も減少していく傾向にあった。

善福蛙では、2013年10月12日に第八回カエルアクションとして「善福寺川再生の夢をカタチにしよう」を開催し、井荻小学校で水路区間の善福寺公園を対象地にして模型づくりワークショップを行った。かつての水田を再生し、水路を小川として蘇らせ、暗渠部を開渠にするプランが描かれた。その後、杉並区の夢水路事業が決定された直後の2014年09月28日に第11回カエルアクション「源流のつどい 善福寺公園下池上池連絡水路」を開催し、水路に入り、市民参加型生き物調査、掃除、談義を行った。

4. みんなの夢水路基本計画ワークショップと善福蛙の活動プロセス

杉並区が開催する「みんなの夢水路」基本計画ワークショップに先立ち、地域住民への夢水路事業への関心を高め、論点を整理し、理解を促進するために、善福蛙は3回の一般向けイベントと1回のシンポジウムを開催した。2015年2月8日、第12回善福蛙アクション「長老に聞く 善福寺の今昔一風致地区の歴史を知る」を開催。善福寺風致地区のふるさと見分け（フィールドワーク）を行った後に、地元の郷土史家である野田栄一氏を招き、善福寺地域の景観史を伺った。本イベントでは、善福寺町会会長で元善福寺風致地区協会会長の本橋又藏氏が講演する予定であったが、体調不良のため欠席となり、そのヒアリング内容を共有した。2015年6月28日の「設立記念シンポジウム「ひらけ！夢水路」」では、東京学芸大学の吉富友恭氏による夢水路のポテンシャル、九州大学大学院林博徳氏から福岡県上西郷川の自然再生プロセスを共有した後、参加者とディスカッションを行った。2015年7月26日の第13回カエルアクション「源流のつどい vol. 2」では、水路での掃除と生き物調査、およびワークショップ「ホタル水路の未来を語ろう」を行った。ワークショップでは、空間、生物、水循環、市民工事、参加、情報伝達、行政との連携などについて広い論点について議論を行った。特に、公園と水路の一体化、上池下池のかいぼり、子どもや市民の工事への参加、地域住民に周知するためのイベント開催、流域全体の中での位置づけ、都立公園の巻き込み、区のWSの前に原則を話し合う、主要なステークホルダーのインタレスト確認などの論点が確認された。

2015年9月1日に開催した第14回カエルアクション「知ってる夢水路のこと？」では、井荻小学校生徒らと善福寺川上流の河床に降り、川掃除を通して川の状況の共同で確認した。その後、地域住民や環境団体と夢水路事業の基本原則および水路改修の方針を共有するワークショップを行った。基本原則を「表-1」に整理した。主な原則として「善福寺川を変えることは始まりであり終わりでないこと、生物多様性を目指すこと、川で自由に遊ぶことを目指すこと、水路だけでなく公園など周囲の空間も使うこと、保護と利用の使い分けなど水路のルールをつくること」が共有された。水路改修の方針として、一部は護岸を撤去し、緩勾配にすること、川の中の流れに変化をつけること、左岸にエコトーンを形成することなどが合意された。水路左岸の斜面地では、市民組織「善福寺公園の緑を守る会」が貴重植生種の保全活動を行っていた。

表-1 第14回カエルアクション「知ってる夢水路のこと？」で地域主体と共有された夢水路事業の基本原則と整備の方針

今後の基本原則と目標	水路改修の方針
・ 善福寺川を変えることは始まりであり、終わりではない	・ 一部は護岸を取り、緩やかにする
・ 生物多様性を目指す（水生生物、植生、生態系）	・ 川の中は、流れや深さに変化を出す
・ 川で自由に遊べることを目指す	・ 左岸にエコトーンを作る
・ 川だけでなく、公園など周りの空間も使う	・ 柵やフェンスは取外す
・ 人が関わる仕掛けを作る（市民と作り続ける）	・ シードバンク調査から水路植生を再生する
・ 文化や歴史の文脈を活かし、池とのつながりを考える	・ あまみず貯留利用は今後議論を詰める
・ 保護する所と利用する所の仕分け	
・ 使い分けなど水路独自のルールを作る	
・ 資料館や児童館とともに、情報提供の場を作る	
・ 千川用水を利用するなどして、流量を増やす	

左岸斜面林は整備せず保全を続けることを当団体と合意できたことは、その後の整備を進める上で、対立構造をあらかじめ取り除き、基本計画ワークショップを始める上で重要なステップであった。

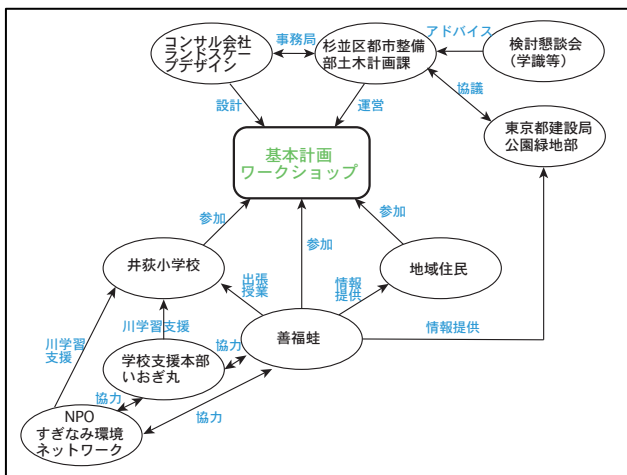


図-8 みんなの夢水路基本計画ワークショップの体制

杉並区が主催する「みんなの夢水路計画づくりに係るワークショップ」は、2015年10月17日の第一回ワークショップを初めに、年内に合計四回開催されるスケジュールであった。「図-8」にワークショップの体制を示す。第一回ワークショップでは、井荻小学校生徒から夢水路の想いと、地域住民へのアンケート結果が発表された後、ワークショップ参加者にどのような水路にしたいか「夢」の意見出しが行われた。第二回基本計画ワークショップは、2015年10月31日に開催され、善福寺公園内水路にて現地踏査が行われ、「水」、「光・みどり」、「人」、「周辺環境」という視点から意見が共有された。水は浅く、流れがほとんどないこと、多様性が少ないこと、樹木が多く暗いところは間引く必要があること、水路周辺では人の利

用が少ないこと、柵が周辺にあり水路に近づきにくいことなどが共有された。

ワークショップの結果は、善福蛙定例会（カエル会議）で参加者から報告され、論点整理とフィードバック内容が議論された。2015年10月23日のカエル会議では、ワークショップの論点となる区の水路用地と、都の公園用地の一体化という点に関しては、区から都に協議を行い報告を求める点と、あらかじめ善福蛙から都の関係者に情報を伝えることが確認された。また、井荻小学校の生徒など、子供がワークショップに参加しているもの、アシスタント的な位置付けであったので、大人と同じテーブルで意見を述べてもらうように区に伝えることが共有された。さらに、ワークショップの前後に、ワークショップ参加者への情報提供を行うことを目的とし、善福蛙は一般向けレクチャーイベントであるカエルセッションを行った。2015年10月23日のカエルセッションでは善福蛙メンバーの平田英二氏が武蔵野台地における10万年に及ぶ善

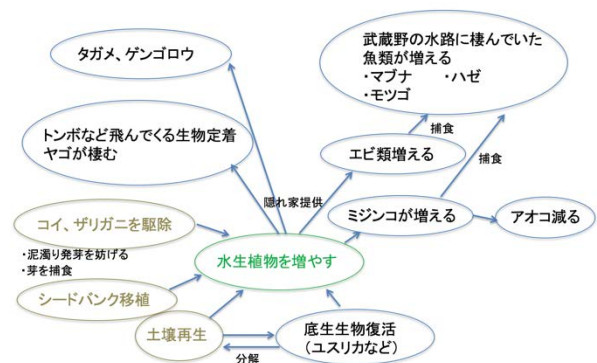


図-9 カエルセッションで示された環境目標とボトムアップで水路の生態系を豊かにするプロセス

福寺川形成史をテーマに「善福寺川解剖」を講義した。2015年11月12日のカエルセッションでは、筆者の滝澤

がプレゼンターとなり、環境目標像と流量確保の検討を行った。環境目標像では、昭和初期の井の頭池に生息していた水生生物種、現状の水路と善福寺川で確認される水生生物種を参考としながら、目標種を設定、どのようなプロセスで生物を再生していけばいいのかを提案した。また、流量検討では、①千川上水からの導水、②井戸の流量増加、③池の水面面積の適正化という選択肢を検討した。

2015年11月15日に開催された第三回基本計画ワークショップでは、水路の基本計画案として、平面・断面形状の検討が行われた。4グループごとの案のまとめを「図-10」に示す。共通事項に基づき、水路上流から中流部は生物、植物を保全し自然観察を行うエリア、中流から下流部は、傾斜護岸で水面に近づき、子どもが安全に水辺に入れる親水エリアとの大きなゾーニングが導かれた。傾斜護岸を形成するためには、区の水路用地だけでは空間が不足することから、区が公園管理者である東京都と協議し、その結果を次回ワークショップで報告することが確認された。また、左岸側斜面は、大きな整備は行わずに、自然護岸的に改良することが共有された。その他の論点として、流量改善、下流部から下池の暗渠部の開渠化、トイレ移設、維持管理への市民の参加などの意見が出た。上記の議論を踏まえ、第四回のワークショップにて事務局より計画案が提案されることが告知された。

第三回ワークショップ後に行われた2015年11月27日のカエル会議では、①環境目標像の検討を掘り下げ、水路、池、川の連続性を確保すること、国内外来種は受け入れ侵略的外来種は駆除すること、目標生物の生息環境、生活史を調べて整備の与件とすることが議論された。②善福蛙の活動として、夢水路への水生生物移植へに向けたシードバンク採取を善福寺池・水路敷地で行い、井荻小学校で育成を行うことが決定された。また、③第四回ワークショップ後に、ワークショップ参加者で「夢水路を見守る会」

を結成し、設計、工事への反映をチェックする体制づくりを提案することを決定した。また、善福寺川中流域の和田堀公園の自然再生プランの検討や、2015年12月11日のカエル会議では福岡樋井川のあまみず社会研究会メンバーと合同で、善福寺池流域再生に向けたアクションプランづくりを行い、源流部の水路のみならず、同時並行して、善福寺川流域全体の再生への活動を行った。

2015年12月13日に開催された第四回基本計画ワークショップにおいて、事務局側より基本計画案として平面図、断面図、模型が提案された「図-11」。計画案は、上流部は保全エリアに観察のための展望デッキ、中流部には、水面へのスロープと親水テラス、下流部に水面になだらかに傾斜した草地エリアと、概ね参加者の意見を折衷的に取り入れたものであった。下流部の傾斜護岸は都との協議の結果、底地は都立公園が所有し、区が占用、管理を行うという条件で、実現可能となった空間であった。ワークショップ参加者からは、水路と公園の空間の一体化が実現したことが評価され、大筋において合意が得られた。ワークショップ後半では、水路の管理運営において住民が参加できる活動についての議論が行われた。運営管理に対する意見は「表-2」に掲げる。また、ワークショップ参加者で「水路を見守る会」が結成された。計画案の提示を受けて、善福蛙では2016年1月7日のカエル会議にて案の評価を行った。九州大学大学院の島谷幸宏氏からは、以下の意見が出た。①水路の形状が直線だけなのは不自然。自然の流路はうねりによって構成される。それによって、生物や生息環境の多様性も向上する。②斜面が水面までまっすぐに擦りつけているのは不自然。地形のアンジュレーションに緩急をつけることで、自然な地形となる。③水際の植生が不明確。地域の郷土種を入れることが望ましいが、その場合に護岸の構造が植栽にあうように検討する必要がある。④遊歩道、デッキは必要か。川に入る

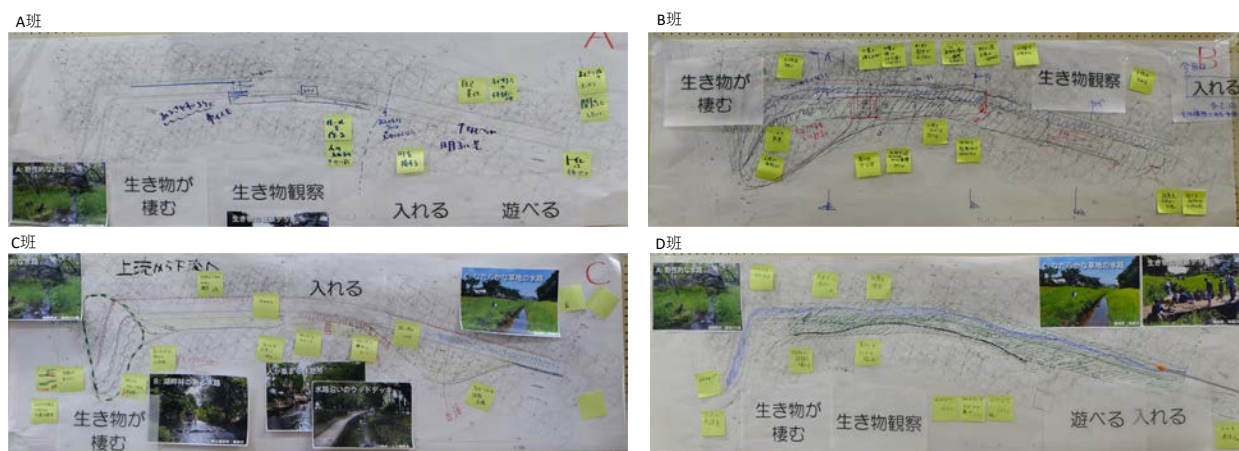


図-10 第三回みんなの夢水路基本計画ワークショップで発表された各班の検討プラン（筆者撮影）

ためには斜面地などがあり、これ以上、狭い空間にわざわざ園路、デッキをつける必要があるのか、検討する必要がある。また、善福蛙メンバーの吉村伸一氏からも同様の指摘があった。上記の議論をまとめ、計画案にフィードバック

するために、まず「水路を見守る会」のメンバーとともに水路のデザインを再検討するカエルセッションを2016年1月27日に開催した。

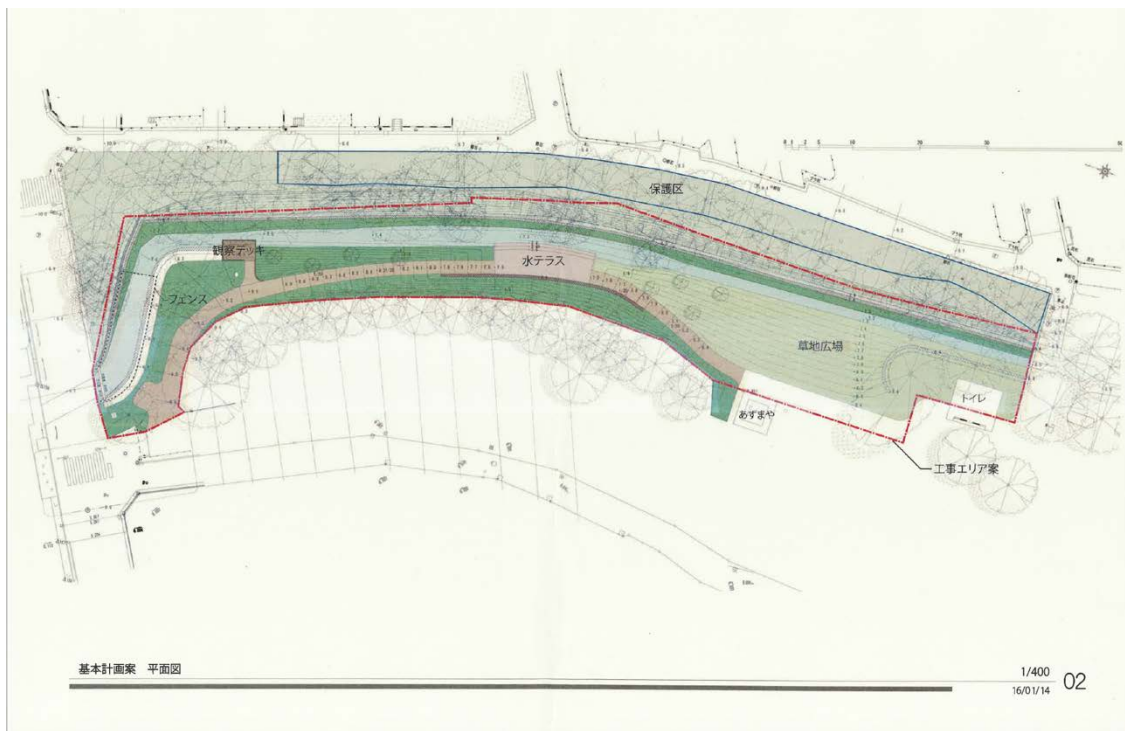


図-11 第四回みんなの夢水路基本計画ワークショップで発表された事務局の平面検討プラン（杉並区提供）

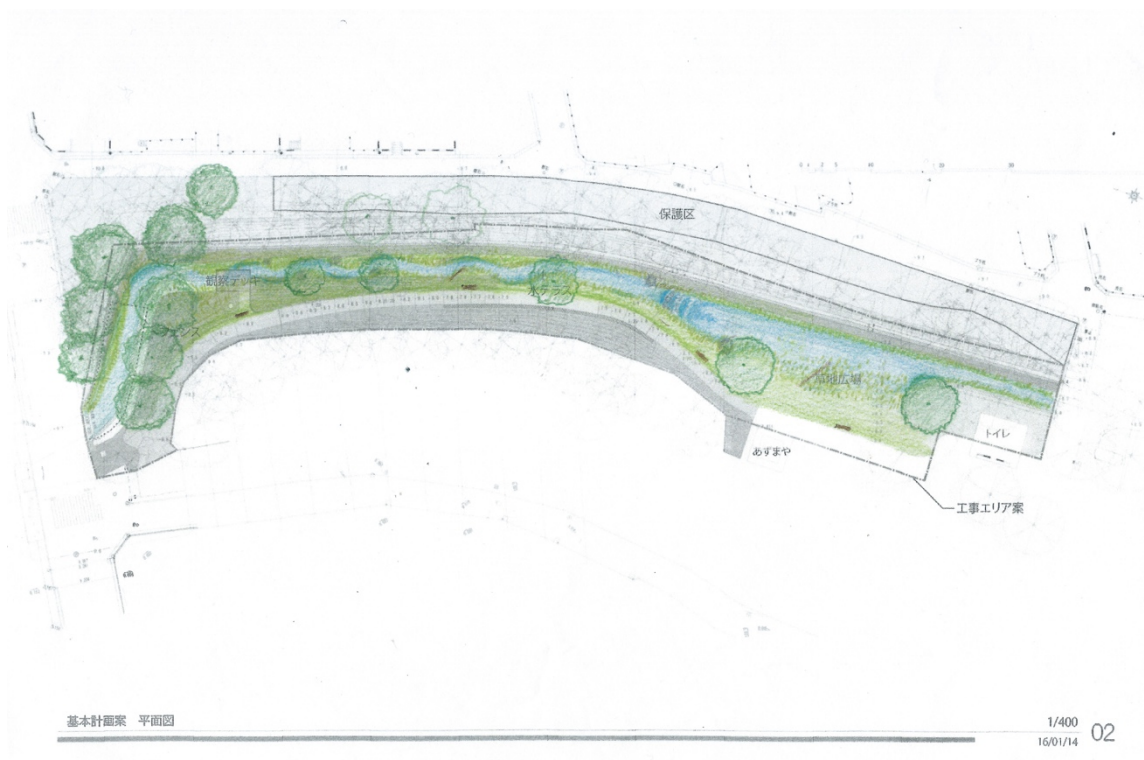


図-12 2016年1月27日のカエルセッションで提案された善福寺蛙中村氏の平面検討プラン（中村氏提供）



図-13 第四回みんなの夢水路基本計画ワークショップで発表された事務局の断面検討プラン（杉並区提供）

表-2 第四回みんなの夢水路基本計画ワークショップで出た水路の管理運営に関わる意見

●水路の清掃活動等の維持管理活動への参加
●水路の生き物観察・調査（モニタリング）への参加
●水路利用に関わるルールづくり／水路管理マニュアルの作成
●話しあいを行える場づくり（組織づくり）／ワークショップの継続
●水路改修、利用、水路の歴史等に関わる情報発信

表-3 2015年度みんなの夢水路基本計画ワークショップ前後の区と善福蛙の活動と議論のプロセス

活動主体	活動分類	活動内容
区	ワークショップ	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 第1回ワークショップ 10/17 ・計画地の概要説明 ・并枝小学校生徒発表 ・オリエンテーション </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 第2回ワークショップ 10/31 ・現地視察 ・水路の水質・生物 調査結果の説明 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 第3回ワークショップ 11/15 ・基本計画案の検討 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 第4回ワークショップ 12/13 ・基本計画案の検討 ・管理運営の検討 夢水路を見守る会結成 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 住民説明会 3/26 ・基本計画案の説明 </div> </div>
	懇談会	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 第1回基本計画懇談会 12/3 ・基本計画案についての 意見聴取 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 第2回基本計画懇談会 1/14 ・基本計画案についての 意見聴取 </div>
	協議	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 東京都との協議 12月上旬 ・敷地範囲、境界設定 ・水源に関する協議 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 善福蛙との意見交換 5/9 ・水路デザイン ・環境目標、市民普請 </div>
善福蛙	外部向け活動	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カエルアクション#12 2/8 長老に聞く善福寺の今昔～嵐政地区の歴史を知る ・ふるさと見分け ・地域郷土史家講演 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 設立記念シンポジウム 6/28 「ひらけ！夢水路」 ・夢水路ポテンシャル ・上西郷川の實踐事例 ・ディスカッション </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カエルアクション#13 7/26 清流のつどい ・水路の清掃 ・夢水路事業の啓蒙 ・川と水路の再生 ビジョン検討 ・ステークホルダー分析 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カエルアクション#14 9/1 ・善福寺川清掃 ・事業の基本原則 ・空間整備の方針検討 ・ステークホルダー協議 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カエルセッション 10/23 ・善福寺川解剖講義 ・環境目標像の検討 ・流量、水源の検討 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カエルセッション 11/12 ・環境目標像の検討 ・流量、水源の検討 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カエルセッション 1/27 ・水路デザイン検討 ・善福寺川環境目標像検討 </div> </div>
	内部向け活動	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カエル会議 9/27 ・福岡とのあまみず 連携検討 ・和田堀公園 自然再生事業報告 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カエル会議 10/23 ・ワークショップ報告 ・あまみず社会研究報告 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カエル会議 11/27 ・環境目標像の検討 ・善福寺池サウンドバ ンク検討 ・和田堀池自然再生 検討 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カエル会議 12/11 ・福岡種井川メン バーと意見交換 ・善福寺川アクシ ョンプラン検討 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カエル会議 1/7 ・水路デザイン検討 ・WS参加者 ML作成 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> カエル福岡視察 3/12,13 ・種井川視察 ・上西郷川視察 </div> </div>
	地域での活動	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 善福寺川見聞 9/27 ・善福寺川合流式下水道解説 ・夢水路事業 PR 并枝小学校出張授業 并枝小学校出張授業 9/26 10/9 ・善福寺川と水田 ・野川環境調査 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 杉並区水鳥 シンポジウム 1/30 「雨と川のお話」 并枝小生徒発表 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 第16回善福寺川 フォーラム 3/12,13 「雨と川のお話」 并枝小生徒発表 ・善福寺活動発表 ・夢水路事業報告 </div>
主な論点	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 基本的な考え方・ステークホルダー </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> 環境目標像・流量・敷地領域 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;"> 水路形状・空間デザイン </div>	

善福蛙メンバーの平田英二氏が、武蔵野三大湧水池と、それらを水源とする河川で都市化以前によく見られた植生をベースにした目標種を提示し、次に善福蛙共同代表の名古屋大学大学院・中村晋一郎氏が、デザイン再検討案「図-12」を提示した。中村氏の再検討案は、水の流れの自然の力を使って水路をデザインすることを試みたもので、蛇行を形成させることで陸側にも人の利用スペースを生じさせること。また、堰上げによる淵、その下流部の瀬の形成、湿地的な水面など低水路環境の多様化を狙ったデザイン案であった。以上の提示は、セッション参加者からの共感を得、水路を見守る会で共有、検討を行い、区に修正案を伝える機会を設けることが合意された。

2016年3月26日に開催された住民説明会では、事務局側

に提案された計画案が提示され、詳細設計にて低水路や植栽などの細部はデザイン検討されるという条件で、概ね住民側から合意を得た。また、夢水路はあくまでも事業名であり、今後の維持管理の体制づくりの中で施設の名称も検討していく旨が確認された。その後、2016年5月9日に、善福蛙と区との協議が開催され、「水路を見守る会」の合意を得たものとしてデザイン再検討案および再検討事項が伝えられた。また、実施設計、施工の段階でも定期的に住民の意見を取り入れる機会を設ける場を、維持管理検討の場で実現していくことが合意された。「表-3」に2015年度における基本計画ワークショップ前後も含め、全体に渡る行政と善福蛙の活動と議論のプロセスを整理した。

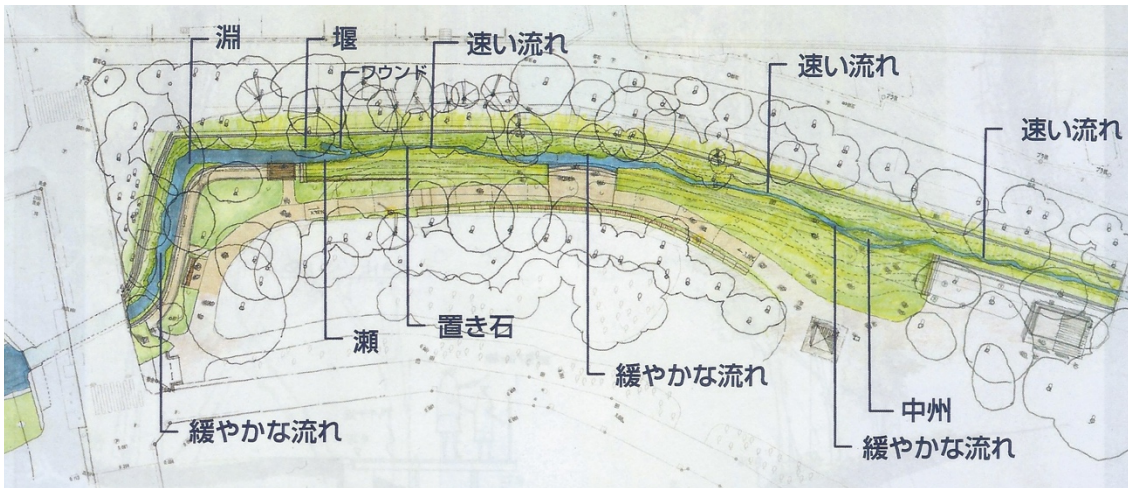


図-14 2016年12月17日の第二回維持管理検討会において発表された事務局の実実施設計プラン（杉並区提供）

5. 維持管理検討会、準備会から協議会設立へ

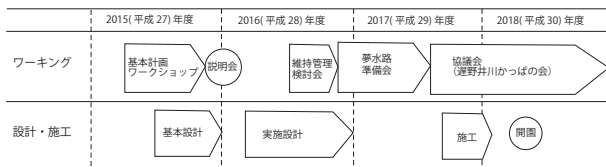


図-15 2015年から2018年までの夢水路事業全体のタイムライン

2016（平成28）年度は実施設計と並行して、整備後に住民参加で維持管理を行うための「みんなの夢水路整備維持管理等に関わる検討会」が区により開催された。参加者は、基本計画ワークショップ参加者である「水路を見守る会」ほか新規に8名が参加した。2016年10月1日の第一回維持管理検討会では、①夢水路では杉並区唯一の親水空間となるため、安全管理、ルールづくりが必要、②区の管理は、通常の河川管理同程度の剪定年1回、除草年2～3回、清掃週1回、水路内土管理年1回、水質モニタリング、③市民と区との役割分担の明確化、④多世代が参加できる運営団体が必要、⑤事業を広く伝える広報が必要という点が合意された。2016年12月17日の第二回維持管理検討会において、2017（平成29）年度より、住民主体の維持管理を行う組織として協議会が発足すること、そのための設立準備会を立ち上げることが決定され、筆者を含む合計13名の市民有志が準備会事務局メンバーとして参加することが決まった。また、実施設計案に関して区から平面図の提示「図-14」が行われた。実施設計案では、低水路に蛇行を設けること、堰を設け、淵や瀬、流速の変化を形成すること、水際に多様な微地形をつくることなどが提示された。善福蛙が2016年5月に区に提案したデザイン再検討事項に関しては、遠路やデッキなどの構造物には

変化がないもの、低水路や地形の多様化という観点は完全に採用した案であった。さらに、郷土種を使用した植栽などに関しては、今後の実施設計での検討事項ということで合意に達した。

2017年1月13日に「第一回夢水路に係る準備会」が開催された。2017年8月の協議会設立を目指した検討事項として、①会則、区との協定、事務局、代表、運営内容などの組織内容の検討、②整備への参加、利用ルール、活動内容、広報などの活動内容の検討を、以後月一回の準備会にて行っていくことが共有された。また、準備会の代表者として善福蛙メンバーで井荻小学校学校支援本部いおぎ丸の岩渕晴子氏が就任することが決定された。第一回準備会から2017年9月19日の第十回準備会（最終）までの、準備会での検討事項と主な意見、決定事項を「表-4」にまとめた。準備会では、2016年6月の第六回準備会にて会則が決定、同8月第八回準備会にて協議会団体名は「遅野井川かっぱの会」と決定された。名称については様々な議論があり、もともとの水路は地元で「よしきり川」と呼んでいたという説、古地図に「遅野井川」と表記されている説などが交わされた。善福寺上池の水源が「遅野井」であることから、準備会では遅野井川を正式名称とすることに決定した。上記の議論を踏まえ、水路の施設名称も「遅野井川親水施設」と呼称することを区は決定した。区と協議会の役割分担や、協議会の位置づけに関する取り決めの協議を続け、9月27日に区と「遅野井川かっぱの会」は協定書を締結、協議会は正式に設立された。協議会のメンバーの13名のうちおよそ8名は善福蛙メンバーであるが、5名はそれ以外の地域住民である。世代も中学生から高齢者まで幅広い。また、誰もが希望すれば新規に加入することができる。「遅野井川かっぱの会」は、市民組織をも内包する独自の多世代の地域主体として、水路の維持管理活動を、区と協働し持続的に行うことになった。

表-4 夢水路に係る準備会の検討プロセス

	開催日時	検討事項	主な意見	決定事項
第一回準備会	2017年1月13日	・検討項目の確認 ・スケジュールの共有 ・代表者の決定	・区とコンサル、市民団体持つ環境ベースデータを共有する	・1月より毎月定例を行い8月に協議会発足を 目指す ・代表者に岩淵晴子氏 ・区で検討の環境目標を共有する
第二回準備会	2017年2月10日	・生き物調べ実施報告 ・環境目標設定の検討 ・区の会則案の検討 ・施設名称の検討 ・会則の検討	・工事の前に生き物を救出する必要 ・よしきり川という名称がルーツ ・子供の関わり方は学校の行事に組み込む ・水生生物を環境目標としても検討する	・季節ごとに市民参加型生き物調査を実施 ・河床に勾配をつけて流速10cm程度を目標 にする ・工事期間に子供が入れる日を設ける
第三回準備会	2017年3月9日		・会の目的はシンプルな表現に ・水辺の問題にどう取り組み、心地よいアメニティ を提供するかを示す ・多世代共創を目指し子供も通常会員に	
第四回準備会	2017年4月5日	・会則の検討 ・次回生き物調べの検討	・自然という言葉が多い、川の活動は自然だけが 対象ではなく他の問題も存在する ・会員になることで、川に関わる権利を得たと勘違 いして、生物保全を阻害する行為を行う場合それ を規制する条項が必要となる	・具体的な行動は川計画で検討 ・区との協定書の中で具体的作業は示す ・会計は事務局業務とする
第五回準備会	2017年5月15日	・会則の検討	・水路は地元ではよしきり川と呼ぶが、遅野井川 との古地図表記もある ・会則の紙面体裁は、お役所的でなく市民が担っ ている雰囲気 ・「善福寺川川守会」の提案	・9月から10月に工事開始
第六回準備会	2017年6月19日	・会則の検討 ・協定書の検討 ・案内板の検討 ・市民普請の検討 ・次回生き物調べの検討	・会と契約する主体が土木事務所であるが、今後 様々な課題が発生した場合従来の担当部局土木 計画課も含め協力する条項がほしい ・工事途中への子供たちの参加ができないか	・会則の決定 ・上流部に総合案内板と制札板を1基ずつ、 中流部、下流部に制札板を1基設置 ・板の記載内容は、11月中旬に決定 ・維持管理は土木計画課とも相談可能 ・工事掘削土のシードバンク採集、植え付け を子供が行う
第七回準備会	2017年7月18日	・協定書の検討 ・会の名称案検討	・会の名称は井荻小だけでなく桃四からも提案を 出してもらうべきではないか ・会の名称は準備会で検討し、水路の名称は公 募するという考え方もある	・来年度予算計上のため9月まで必要項目 リストアップ
第八回準備会	2017年8月18日	・協定書の検討 ・会の名称案検討 ・予算計上必要項目リスト アップ	・協定書「樹木の剪定と除草」作業の内容をだれ が指示するか専門家のアドバイスが必要 ・来年度の活動に関する予算計上は基本 的なものに絞る	・組織名称を「遅野井川かっぱの会」と決定
第九回準備会	2017年9月12日	・協定書の検討 ・運営実施計画案の検討 ・次回生き物調べの検討	・協定書「モニタリング」→「観察と記録」としたい	・修正協定書で問題なければ決定 ・予算計上項目の決定
第十回準備会	2017年9月19日	・協議会組織の検討 ・工事前生き物救出イベント の検討	・4月からの体制は、代表、副代表(大人と子 供)、事務局、運営委員、一般会員としたい	・来年4月の総会から新メンバーを募る ・facebook立ち上げ ・9月27日に区と協定書締結

区は水路の工事を2017年11月より開始することに決定したが、工事開始に先立ち、遅野井川かっぱの会は、2017年10月21日に「生き物救出大作戦」として、水が抜かれる水路から生き物を上池に逃がすイベントを開催した。本イベントは市民参加型の生き物調査を兼ねており、季節ごとに生き物調査をモニタリングとして実施することも遅野井川かっぱの会の活動内容である。2017年11月22日には、かっぱの会メンバーが、工事現場に入り、工事施工業者の重機とかっぱの会メンバーのスコップにより水路の掘削土を掘り出し、30袋の土嚢に採取した。これは、もともと水田であった現場土層から、かつて生息していた水生植物の埋土種子を採取、発芽、育成させ、施工区間に埋め戻すことを目的としている。採取した埋土種子が入った土は、井荻小学校、桃井第四小学校、かっぱの会メンバーの住宅にて、湿潤条件を変えながら、保全管理している。掘削土の一部は、植栽工事期間の2018年2月に、井荻小学校6年生38名、桃井第四小学校4年生117名により、施工区間に埋め戻された。また、生徒たちは郷土種ポット苗の植え付けも行った。植栽種については、準備会活動中に、

かっぱの会と設計側で環境目標像のすり合わせを行い、荒川水系の在来郷土種のみを使用することが共有された。また、協議会では、総合案内板に記す施設説明、制札板に記す遅野井川ルールの文面についての検討を行った。

工事は3月末に竣工し、川開きの7月までは、植物が根付くための期間として立ち入り禁止区域となり、仮囲いネットフェンスが設置された。仮囲いには、井荻小学校、桃井第四小学校の生徒たちが作成した川学習の成果や、遅野井川をテーマにした詩が展示され、地域住民へ、事業と善福寺川再生ビジョンをPRする場となった。2018年7月21日、遅野井川親水施設開園式が開催された。式典には、子供たちから夢水路ビジョンを受け取った市長、2009年当時最初の川学習を小学生として体験した大学生、かつて夢水路ビジョンを描いた高校生、現役で川学習に取り組む小学生が会合し、スピーチを行った。開園式には、生徒、父兄、地域住民、遅野井川かっぱの会、善福蛙メンバー、担当した行政職員ら約300人が参加。開園式後、人びとは遅野井川に入り、親水空間を自由に滞留した。



図-15 遅野井川開きの様子

6. 考察

上記の夢水路事業の経緯を通して、地域主体と共に事業を作り上げていくプロセスに関して、以下の考察を挙げる。①様々な局面で大筋のビジョン、原則、方針を示し続けたこと。ワークショップや検討会では、様々な議論や論点が発生するが、専門性の細部に入り込んだり、方向性が掴めず、参加者が迷ってしまうことがある。議論の細部や、意志決定プロセスに入る前に、多くの人々が納得できるビジョンを示すことで、参加者は原点に戻り、俯瞰的な視点を持ちプロセスに参加できることを支援できた。②行政間の縦割り、組織間の縦割りをつなぐ動きを受け持ったこと。東京都の公園用地と、区の水路用地の一体化が課題となっていた際など、都と区をつなぐアプローチで両者に情報共有を行った。組織の一部門だけでは諦めてしまうような事象も、相互のインタレストを共有する機会を創出することにより、実現可能性が高まり、多くの参加者が望む方向にプロジェクトを進めることが可能となった。③一般市民へ細やかな情報提供の場を設けたこと。ワークショップで新しい論点が上がると同時に、それらについて詳しいメンバーや専門家が一般へのレクチャーやアドバイスをを行う場を設け、論点を整理し、理解を促した。同時に、実際に川に入り、生き物に触れ、地域を歩くような体験イベントを多数実施し、一般層にも河川や地域に関心を持ってもらうきっかけを設けた。④学校との協働と多世代共創。小学校の川学習への参加や様々なイベントでの協働を通して、子供たちに都市河川の現状と課題、それらを解決するビジョンを提示し、子供たちが大人と同じ視点で、河川やインフラ、地域の問題を考え、自主的な活動を促すように関わった。このような動きによって、子供たちは、自分なりの言葉や行動で地域や社会に働きかけ、実際に行政を動かし、ワークショップにも参加するこ

とになった。子供たちの熱心で奉仕的な活動は、父兄を動かし、地域を動かし、社会を動かす原動力となった。同様に地域の長老からファミリー層まで、様々な世代と共に課題に向き合い続けた。世代の多様性は地域の問題を解決することにつながりやすい。多様な視点から、地域の全体像が浮かび上がってくるのが理由である。「多世代共創」の視点で市民参加を進めた。⑤オープンなネットワークを保ち続けること。善福寺川と地域の未来に関心を持つ、地域内外の様々な人びとと交流し、共創する場をできるだけ多く設けた。活動母体となる組織は、参加したい意志を持つ主体には、誰でもいつでも参加できる体制を保った。オープンであることによって、ネットワークが醸成され、様々な局面での力強いリソースとなった。

以上の5つの視点を保ちながら、常に流域全体の再生という視点から全体像を掴もうとすること。善福寺公園内水路という空間限定を越えて、流域全体から、事象を結びつけて理解し、活動することが重要であった。この視点が市民組織メンバーに共有され、それぞれが自律的に動くことを通して、関与するステークホルダーにも視点の共有が行われ、全体のプロセスが進行したといえる。

謝辞：本研究において遅野井川かっぱの会、杉並区、井荻小学校、学校支援本部いおぎ丸、すぎなみ環境ネットワーク、ランドスケープデザイン、善福寺川を里川にカエル会の皆様から多大な支援を頂いた。厚く謝意を表す。

付録

参考文献

- 1) 中村 晋一郎(2018). 都市における「川離れ」解決に向けた「気づき」の形成について—東京・善福寺川における河川教育の実践— 実践政策学 第4巻 1号
- 2) 岩永祐樹・巖島怜・佐藤辰郎・島谷幸宏(2015). 流域治水による合流式下水道雨天時越流水の流出抑制に関する研究—東京都善福寺川を事例として— 河川技術論 文集, Vol. 21, 455-460
- 3) 中島直人・西村幸夫・北沢猛・鈴木伸治・遠藤新(2000). 善福寺風致協会の活動の変遷についての研究. 都市計画 別冊. 都市計画論文集, Vol. 35, 37-42.